

Designing beyond Design.

Create a Mindful Future, Together



Japan Industrial Design Association

JIDA ANNUAL REPORT 2021-22

2021年度 JIDA事業報告書

2022年8月1日発行

発行人：公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会

理事長：太刀川 英輔

編集：広報担当理事 芝 操枝、広報出版委員長 後藤 規文

エディトリアルデザイン：株式会社モノグラフィーツ

広報委員会・JIDA事務局

〒106-0032 東京都港区六本木5-17-1 AXISビル 4F

TEL：03-3587-6391 FAX：03-3587-6393

jidasec@jida.or.jp

JIDAとは

日本で唯一のインダストリアルデザイン全国組織

「公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会／ JIDA」は、プロフェッショナルなインダストリアルデザインに関する唯一の全国組織です。その前身は、1952年に創立された「日本インダストリアルデザイナー協会」であり、2021年に「日本インダストリアルデザイン協会」へと改変致しました。

インダストリアルデザインは、量産を前提とした工業製品の「使いやすさと美しさ」を目的とし、モノづくりに関わるデザイン領域として発展してきました。そして今日では、産業全般にわたる領域を対象とするだけでなく、その手法・意味・役割などを大きく拡げています。もはやインダストリアルデザインは、従来の製品開発のみならず、人々の生活体験や価値の創造へと展開し、「社会・経済の持続的発展」と「生活文化の向上」を使命として活動しているのです。

JIDAの具体的な活動対象は、「資格付与、セミナー、体験活動、ミュージアム、調査・研究、交流」という公益6事業が中心となっています。また、これらの活動とともに、会員相互の情報共有や職能支援をおこない、プロフェッショナルな能力の向上に努めています。こうした活動は、相乗的にインダストリアルデザインを深化充実させ、変化を続ける社会に貢献するものとなっています。

JIDAの組織としては、全国横断的なセンター活動と、5つの地域ごとのブロック活動により構成されています。センター活動は公益6事業を中心に、国内外でのインダストリアルデザインの普及啓発をおこなっています。また、各ブロック活動ではセミナーやワークショップを通じて、インダストリアルデザインの価値向上と地域の活性化を進めています。

このようにJIDAは長い歴史と実績を背景として、常に社会と時代の変化に目を向け、インダストリアルデザインを通じた心豊かな未来への共創を目指して歩み続けています。

本誌は、JIDAの「2021年度の活動報告書」となるものです。

目次

1	JIDAとは
2	目次
3	ごあいさつ
4	2021年度事業概要
5	組織図
6-7	広報 — 情報委員会 — 出版委員会 — ギャラリー委員会
7	内務
8-9	資格付与事業 — 資格検定委員会
10-11	体験活動事業 — 体験活動委員会 — 学生支援委員会
12-13	ミュージアム事業 — セレクション委員会 — ミュージアム委員会
14-15	調査・研究事業 — 社会課題研究委員会 — 素材加工研究委員会 — プロフェッション委員会
16-19	交流事業 — インハウス委員会 — 渉外委員会
20-21	セミナー他事業 — 70周年委員会 — セミナー委員会 — ブロック交流委員会
22-32	6事業横断活動 — 活動ブロック図 — 東日本ブロック — 中部ブロック — 北陸ブロック — 関西ブロック — 西日本ブロック

ごあいさつ

理事長 太刀川 英輔

Eisuke Tachikawa, President



JIDAは1952年に柳宗理・剣持勇・渡辺力ら25人のデザイナーによって創立された、日本で最も長い歴史をもつデザインの業界団体です。今年記念すべき70周年を迎えました。

理事長2年目となる新米として1年間、改めてJIDAを見つめてみました。この組織には変化の可能性がたくさん見つかりと同時に、そこに秘められたポテンシャルに驚かされています。

例えば私たちの会員企業を見ると、日本の主要なメーカーのほとんどが名を連ねています。デザインと経営の融合や、イノベーション創出のためのデザインの可能性がさまざまに指摘される現在、先端的なメーカーの中でデザインの位置づけは大きく変わり始めています。こうした企業内のデザインの動きを水平につなぐ数少ないハブとしての役割を、我々 JIDAは果たせるはずで。この流れを実現するために、昨年私たちは会員規約の変更など、企業会員の皆様に参加しやすい下地を整え始めています。

あるいはメーカー以外の会員、つまりデザイン事務所や個人の皆様の中にも、優れた技術を持ったエンジニアの方やデザインジャーナリストの方など、デザイン主導の製品開発やイノベーションに役立つ皆様がいることも改めてわかってきました。

また我々が続けている事業にも、日本有数となるデザインのミュージアムコレクションや、ノンデザイナーの皆様にとってもデザインの基本的なリテラシーとなり得る検定事業などがあります。こうした事業の大きなポテンシャルが発揮されれば、強力な力になる予感がします。

そしてデザイン政策が各国と比べて潤沢とは言えない現在の日本を変えるための議論が、経済産業省など様々な省庁で行われておりますが、こうした議論の中でもJIDAは日本のデザインと産業をつなぐ存在として大きな期待を受けています。

我々 JIDAがそもそも備えているポテンシャルが十分に発揮される状態への変化を、まずは最初のステップとして目指しています。

そして今年2022年はJIDAにとって70周年のアニバーサリーイヤーです。記念イベントでは未来のデザインを共に考えたり、デザインに関わる様々なセクターをつなぐ、数多くの機会を予定しています。これからのデザインについてデザインのセクターを横断して対話し合う場を提供して参りますので、ぜひ皆さん積極的にご参加ください。

また私たちは世界40カ国が参加するWDO(The world design organization。旧ICSID)の創立団体の一つでもあります。WDOが毎年世界のどこかで継続開催する世界デザイン会議が、来年2023年には、約30年ぶりに日本で開催されることとなりました。この会の実行委員長には、我々の元理事長である田中一雄さんが名を連ね、実行委員には私を含めてJIDAの方々が関わっています。

東京で行われるこの会議では、未来を持続可能に変化させるためのデザインのあり方を含めて、様々な議論が行われるでしょう。

産業が急速な変化を迫られる現在、インダストリアルデザインは大きな役目を背負うでしょう。なぜならば新しいものや産業を作ろうとすれば、そこには必ず新しいデザインが必要なのですから。

Designing beyond design.

デザインその先のデザインへ。

日本のデザインの歴史と共に歩んできた70周年を迎えるJIDAを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

Designing beyond design.

2021年度事業概要

インダストリアルデザインは様々な社会価値の創造をとおして、広く国民生活の質の向上に資するものである。そのため、広く社会全般と連携しながら、社会的要請に応え、国民のための社会貢献を継続的に推進するものであり、2021年度もコロナ感染症の影響を受けながらも、肅々と以下の6事業を行なった。

(1) 資格付与事業

《信頼される職能の確立》

資格付与事業ではプロダクトデザインの普及・啓発を目的に、商品開発に関わる人やスマートな暮らしをしたい人に向けた関連知識の評価基準となるPD検定事業と関連出版事業を実施している。2021年度は、前年度に実施したPD検定試験の委託先変更とPD検定事務局をJIDA事務局内へ移管して初めての通年活動であった。PD検定を休止せずに事業体制を変更するのは苦労なことではあったが移管に伴う大きなトラブルもなく、受験者は微増にも拘らず収益は大幅に改善し、概ね順調に推移した。

(2) セミナー事業

《専門的知見の充実による社会貢献の推進》

インダストリアルデザインの発展と普及啓発を目的とし、各委員会やブロックで各種セミナーを実施する。2021年度は70周年の前年に当たるカウントダウンイヤーと位置づけ、69周年を掲げた「JIDA Rock Night」を2回オンライン開催した。JIDA新ビジョンを受けて、JIDAが超えるべき課題などを積極的に議論した。また、協会の枠を超えた日本のデザイン政策や、日本の産業とデザインの関係を議論する「JIDA Day & Night」も開催した。その他セミナーとしては、東京都の4区にある中小企業をデザインから支援するTASK事業、名古屋に於いては、名古屋市工業研究所からの受託セミナー、OKB総研から受託のビジネスセミナーを実施した。富山・石川・福井の北陸三県では地場産業や工芸を発信するクロストークセミナーの開催、自動車関連のデザイナーや学生に向けた「伊藤邦久氏スケッチセミナー」のリアル開催なども行なった。

(3) 体験活動事業

《次世代人材の育成による国家基盤の充実》

小学生からデザイン系の学生、若手デザイナーまで、幅広い人々を対象とした人材育成事業であり、

デザインの普及啓発に大きな役割を果たしている。ワークショップ以外にも、各地で開催される企業訪問や工場見学会なども含まれる。2021年度は、コロナ感染症による制限はあったものの、国際学生デザインワークショップ (ISDW)、Eco Design Workshop / Next Eco Design 展2021、電車ワークショップなど、例年に近い形に戻って開催できたものもあった。

(4) ミュージアム事業

《デザインを通じた日本文化の高度化》

文化的価値の高い優れた製品を選定し表彰するセレクション事業と、優れたデザインの製品を収蔵し、公開するための展示を行うミュージアム事業がある。毎年選定品の図録を作成し、国外も含め関係各方面に配布するなど、学術、科学、文化および芸術に寄与している。2021年度で23年目となるセレクション事業は、コロナ禍にもかかわらず例年通り実施された。リモートを中心とした審査会により、ゴールドセレクション5点、特別選定1点を含む、合計62点が選定。そのすべての内容を156ページに及ぶ図録に編集収録し、2,300部の印刷、国内外主要関係機関、図書館、学校、会員への無償配布を実施した。2022年3月4日～3月9日にはAXISギャラリーにて、デザインミュージアムセレクションVol.23で選定された製品62点を一堂に発表、展示する恒例の東京展を通常通り開催した。展示会関係では、開催が1年延期れたMedtecに2021年4月に出展、ギフトショーは東京の出展は取りやめ、今回初めて京都に出展した。

(5) 調査・研究及びその普及事業

《専門性の深化及び客観化》

調査・研究事業には、民間では提供できないデザインツールを使い易い形に開発し普及させる事業と、デザイナーや関連産業に関わる人たちに役立つ専門情報を提供する事業、更に社会問題を解決する目的の調査・研究を行う事業と、知的財産に関する調査・研究事業などがある。JIDA STANDARD SAMPLESとその他見本帳、KIDS DESIGN TOOLSは、2021年度も引き続き頒布を継続し実績を伸ばした。産総研、消防庁との共同研究会「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」は、例年通り6回開催。三菱財団の研究助成事業「ベランダ等高所からの子どもの転落を予防するプロジェクト」に協力し、子どもが乗り越えられないベランダ手摺

のアイデアを具現化した実験用什器を開発した。また、川崎市・産総研・東工大の三者にJIDAも加わり、高齢者の身体保持を考慮したプロダクトデザイン（テーブル仕様）の考案と試作を行った。日本弁理士会意匠部会との共同研究会では、デザインインフラ研究による新たなロイヤルティ契約書雛形を作成した。

(6) 交流事業

《社会貢献及びデザイン価値の拡充発展》

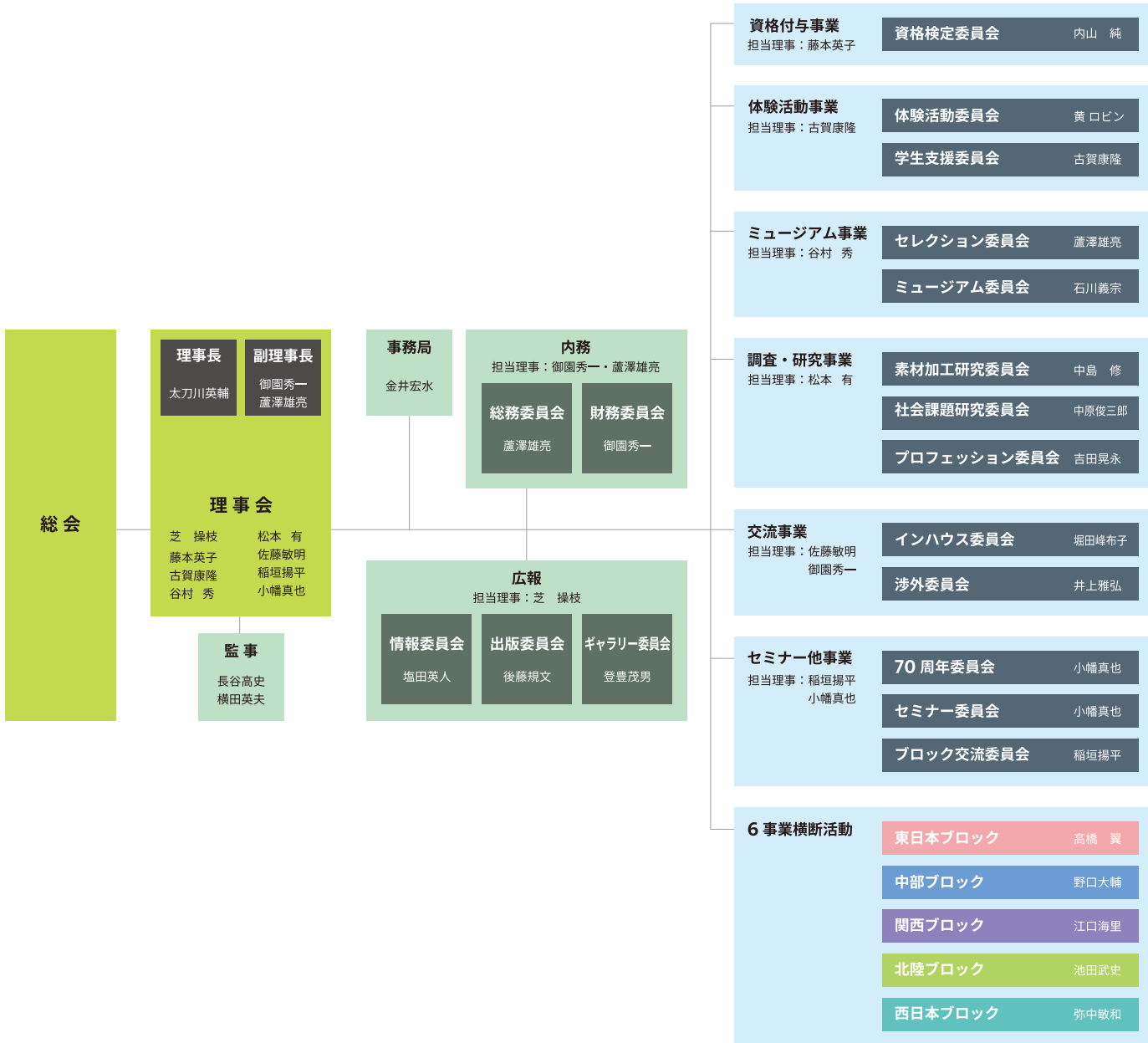
海外では、アジア3カ国でアライアンスを組む交流事業アジアデザインアセンブリ (ADA) と世界デザイン団体 (WDO) との交流、国内では企業内デザイナー同士の交流を活性化するインハウス委員会の事業が定例化している。他には中国の団体との事業が増えてきた。恒例となった、日本 (JIDA)、韓国 (KAID)、台湾 (CIDA) 3カ国の首脳会議と、デザイン系大学生による夏休みの合同デザインワークショップISDWを開催した。2021年は日本が主催国であったが、オンラインで開催された。他にもCHINAPLASヘビデオ登壇の企画、監修、WIDD (World Industrial Design Day) イベントに聞き手役として理事長が参加、WDO / World Design Impact Prize 2021審査対応、2021TEDA CUPオンライン審査、ビデオメッセージ作成を行なう等、海外団体が行なう各種イベントへの協力事業を行なった。

(7) 共益事業

《会員扶助及び会員支援》

会員向け知財相談窓口「DPホットライン」は常時開設しており、会員からの知的財産権、特に意匠登録に関する相談を受け付けている。2021年度も何件かの電話相談や対面相談に対応した。2021年度の活動報告書「2020アニュアルレポート」は、例年通り8月に800部印刷し、全会員と関係団体に無償で頒布した。2021年4月から新協会名となり、ロゴ等の表記も一新した。それに伴い、協会イメージの若返りや、ネットがコミュニケーションの中心となる時代の変化に対応するためにプロモーションビデオを制作した。更に、各担当者がノーコードで更新できるシステムを使ったJIDA公式ホームページメインサイトのリニューアルも行った。これは会員参加型の情報掲載を目指したもので、これによって多くの会員がアクセスでき、自ら更新できるようになった。

組織図



広報機能

昨年度実施した新VI開発を、今年度は各アプリケーションに広く展開し、新生JIDAを広くアピールするべく広報を行った。SNSなどを利用したマルチメディア化をさらに展開させた。

情報委員会

委員長：塩田 英人

■JIDA定時総会
コロナ禍の感染防止対策のため、ハイブリッド方式の定時総会とした。リアル会場での参加人数を最小限とし、在宅の会員にはYoutube配信を行ない、在宅理事はZOOMにて参加する、ハイブリッド総会を実施した。



定時総会シンポジウム 左から田中一雄前理事長、佐藤卓氏、中村勇吾氏

出版委員会

委員長：後藤 規文

■JIDAパンフレットのリニューアルデザイン
レイアウトデザインは、ツバメヤ株式会社に依頼。掲載写真を新しいものに入れ替え、構成を6事業の表現とし、新生JIDAを表現した。

■アニュアルリポートの新表紙デザインリニューアルと2020年度版の編纂
表紙デザインを、ツバメヤ株式会社に依頼し、リニューアルした。2020年度版のアニュアルリポート編纂を行い、8月に800部印刷完了し頒布した。

■年賀状デザインのリニューアル
アニュアルリポートの表紙デザインに合わせ、年賀状のデザインもリニューアルした。

■定時総会シンポジウム
昨年度JIDAのVIをデザインいただいた佐藤卓氏と今年度PVの制作をいただく中村勇吾氏、および田中一雄前理事長によるトークセッションを行い、好評を得た。

■JIDA-プロモーションビデオの制作
映像クリエイターの第一人者である中村勇吾氏に制作を依頼し、語りはないものの映像で「デザインの世界の広がり」を表現いただいた。

■JIDAメインサイトのリニューアル
各担当者がノーコードで更新できるconcreteCMSのシステムを使った、JIDA公式ホームページのメインサイトのリニューアルを行った。これは、会員参



JIDAプロモーションビデオ
年賀状デザイン（本年度イヤーカラーはシアン、来年度以降は暫定）

加型の情報掲載を目指したもので、複数の会員が携われ、更新をしやすくなったもの。文字情報と画像などのビジュアルの掲載により、より直感的な情報発信を目指している。

■SNSでの情報発信のさらなる強化
Facebook、Twitter、Instagram、Youtubeでの情報発信をさらに推進した。

■講演動画制作
渉外委員会との共同事業である中国のプラスチックの展示会「CHINAPLAS」での講師派遣がコロナ禍により現地訪問が難しいため講義動画の制作を情報委員会で行った。



JIDAメインサイト

ギャラリー委員会

委員長：登 豊茂男

■JIDAギャラリーサインリニューアル
新VIの展開としてJIDAギャラリーの事務所入り口及びギャラリーウィンドウ横のサインを新ロゴ書体にてリニューアルした。



JIDAギャラリーのサイン

内務機能

運営規約・ルールの制定・更新の提言 財務の公正運用

総務委員会と財務委員会で構成される内務は、JIDAの円滑な運営と発展のため、運営ルールの制定・更新提言と財務の公正運用を行っている。

総務委員会

協会の名称変更に伴う諸規程・規則の見直し作業が概ね完了したため、本年度においては事業遂行の円滑化を目的とした諸規程の見直し作業および提言作成を主に実施した。この結果、会員規程の改定および名義使用に関する規程、情報管理規程の新設を完了することができた。現状、積み残し作業としては受託事業規程および関連規程・規則の見直し、会計規則の見直しがあり、次年度はこれに着

■JIDAギャラリー展示会
「倉方ゼミ展 リズム分析学～これってリズム？～」が2022年2月18日～21日までJIDAギャラリーにて開催された。

■JIDA会員作品展「カベテン」の開催
・2021年8月2日（月）～8月21日（土）に、広島市の穴吹デザイン専門学校（広島市南区松川町2-24）



「倉方ゼミ展」ポスター

にて「カベテン」の展示を行った。
・2022年5月15日（日）～21日（土）、広島アステールプラザ市民ホール（広島市中区加古町4番17号）にて「カベテン」の展示を行った。



「カベテン」展示



担当理事 御園 秀一 担当理事 蘆澤 雄亮



左上：年賀状デザイン 左下：パンフレット表紙デザイン 右：アニュアルレポートデザイン（本年度イヤーカラーはシアン、来年度以降は暫定）

資格付与事業

担当理事
藤本 英子資格検定委員会 委員長
内山 純

産業デザインに関する知識評価と資格認証

資格検定委員会

資格付与事業ではプロダクトデザインの普及・啓発を目的に、商品開発に関わる人やスマートな暮らしをしたい人に向けた関連知識の評価基準となるプロダクトデザイン検定（通称：PD検定）事業と関連出版事業を実施している。2021年度は、前年度に実施したPD検定試験の委託先をCBT-Solutions社に変更したこと、PD検定事務局をJIDA事務局内へ移管して初めての通年活動であった。

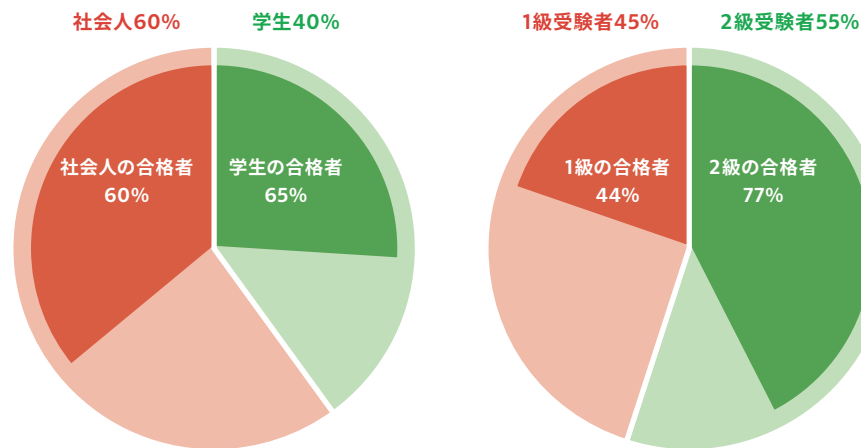
運営体制の大きな変更にもかかわらず移管に伴う大きなトラブルもなく、PD検定の受験者は微増でありながら資格付与事業は非常に順調な推移を見せた。プロダクトデザイン[改訂版]の出版、PD検定1級[改訂版]試験問題のリリース、および1級[改訂版]問題集の発売により検定事業と出版事業の足並みが整い、2020年度より進めてきた体制再構築の効果が見え始めた。

【PD検定事業】

検定試験の委託先の変更、PD検定事務局の移管と共に注力したのはPD検定ホームページの更新やPD検定紹介動画の公開、フライヤーのリニューアルなど広報活動である。コロナ禍での受験者数は減少も危惧されるなかで受験者数が前年比105%には、見易くなったホームページや動画が役立ったのではないだろうか。合格者数・資格認証登録者数も前年比で10%増加したが、検定事業が受験者や

資格登録者の増加以上に安定して運営できたのは、PD検定の運営体制の見直し効果によるものと捉えている。

2021年度の受験者の内訳は社会人が約60%で学生が40%、その合格率は約60%と65%である。PD検定には社会人・大学院生向けの1級と専門学校・学部生向けの2級があり、1級受験者（全体の45%）のうち合格率は44%で、2級受験者（同55%）のうち合格率は77%であった。



PD検定ホームページ



CBTシステム 問題画面例

【関連出版事業】

2021年4月に出版のプロダクトデザイン[改訂版]（PD検定1級の公式テキスト）に続き、PD検定1級[改訂版]向けの試験問題を作成してリリース、従来の1級検定との併設運用を開始した。同時にPD検定1級[改訂版]に準拠した問題集を新規に制作してダウンロード販売をスタートし、その抜粋版をPD検定ホームページで公開した。

プロダクトデザイン[改訂版]の2021年度出荷数は約2100冊であり、初版第一刷の初期配布分を除くと通常年の出荷数は800冊ほどと見込まれる。プロダクトデザインの基礎（PD検定2級の公式テキスト）の出荷数は年間約1200冊であり、初刷り以来1万冊に届いた。また問題集（2級検定対応）の出

荷数は前年度より減少したが、当年度発売の1級問題集の出荷数を加えると前年比10%の増加となり、出版事業はテキストの著作権料を含めて想定外の良い結果となった。

【事業基盤と活動】

2020年度より進めてきた事業基盤の整備、検定試験の委託先の変更とPD検定事務局の移管、ホームページや紹介動画、フライヤーなどの準備により、運営体制が整備されスムーズな事業活動に貢献した。これからも資格検定事業を通じてプロダクトデザインと商品開発に関する知識の習得、イノベーションやスマートな暮らしに資する情報の発信、デザイン思考の普及・啓発に向けた広報と告知の活動に注力していく。



PD検定パンフレット



関連出版物

体験活動事業

担当理事
学生支援委員会委員長
古賀 康隆

体験活動委員会委員長
黄 ロビン

次世代人材の育成による国家基盤の充実

主に若手デザイナーやデザイン系の学生を対象とした体験活動は、人材育成と交流に大きな役割を果たしている。下記以外にも、各委員会やブロックが企画する企業見学、工場見学会などが引き続き計画されている。年間合計10本前後の事業を行っている。

体験活動委員会

■ISDW (International Student Design Workshop) 国際学生デザインワークショップ
日本、韓国、台湾のデザイン団体が ADA (アジアデザインアセンブリ) を構成し、毎年各国のデザイン学生によるワークショップを開催している。2021年度は前年度コロナで延期された第17回目を JIDA が中心となり、初のオンラインによる開催を実現した。開催期間は8/16 (月)～8/27 (金)、テーマは“Omoiyari - Asian Sympathy”「思い遣

り」—アジア的な気配り。

台湾から25名、韓国から18名、日本からは13の大学から24名、総計67名の学生が参加。TutorはCIDAから3名、KAIDから3名、JIDAから4名、計10名。各国混成の10チームを編成し、チーム毎に1名Tutorを配置。ワークショップを行ってデザイン提案を展開した。全体会議はZoom、全体進捗はmiroで共有、情報はGoogle-SuitとFacebookを活用するなど新しい試みを通して新時代のスタイルをつくることができた。

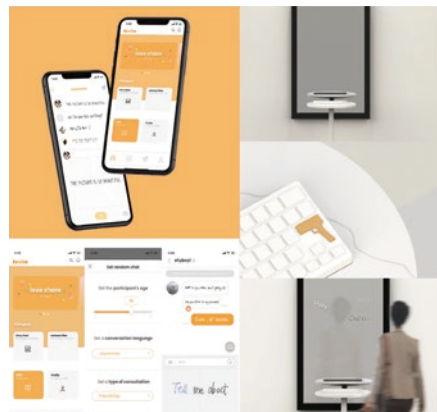
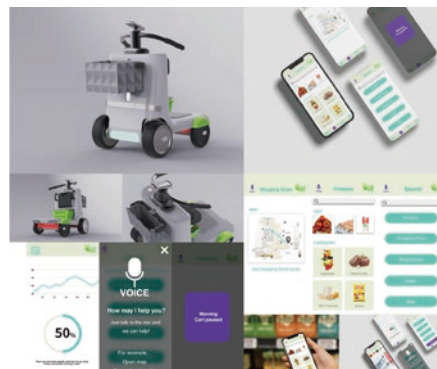
学生支援委員会

学生支援セミナーの開催

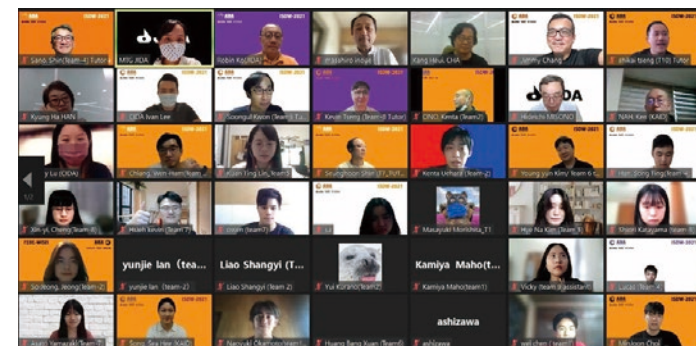
デザイナーとして社会に出る学生に向け、デザインの現場を理解してもらうことで、現実的で明確な社会への扉を開く手伝いをしたいと考えた学生支援セミナーを開催した。第一回目の講師は株式会社資生堂 クリエイティブ本部 クリエイティブディレクター 菊地泰輔氏。コロナ感染対策をしながらの JIDA ギャラリー来場者は10名、オンラインでは全国から60名程度の視聴を頂いた。

【学生照明展の後援】

学生が主体となって開催している「学生照明展2022」に対して会場 (AXIS ギャラリー) の紹介や後援をして協力することができた。



参加チームの作品



Zoom会議



miroでの共有



「International Student Design Workshop」ポスター

ミュージアム事業

美しく豊かな生活をめざして

セレクト委員会

後世に残すべき優れた製品を収集しデザインの普及啓発活動を行う事を主に、セレクト事業で選定された製品による図録の発刊とWEB掲載を中心に展開。今回で23年目となるデザインミュージアムセレクトはコロナ禍にもかかわらず例年通り開催。

■デザインミュージアムセレクト Vol.23

東京展

期間：2022年3月4日～3月9日

場所：AXISギャラリー

選定数：62点（ゴールドセレクト：5点、特別選定：1点を含む）

来場者数：約480名

DMセレクト図録：156ページ 2,300部（国内外主要関係機関へ無償頒布）

■デザインフォーラム「ミュージアムセレクトから見えるデザインの方向性」

特別審査員4名の方々から、選定品を通じて視えてくるデザインの方向性について対談を実施。（YouTube動画配信にて開催）

パネリスト：上條昌宏（AXIS誌編集長）、花澤裕二（日経デザイン編集長）、橋田規子（芝浦工業大学教授）、坂井佳奈子（株式会社ハースト婦人画報社編集局長）

ファシリテーター：谷村秀（デザインミュージアム担当理事）

■「貝印・紙カミソリ®「PAPER RAZOR™」開発ストーリー」

ゴールドセレクトに輝いた製品の中から注目する製品をピックアップし、デザイン開発の現場からその様子を伺い対談内容を図録に掲載。

語り手：塩谷俊介（カイ・インダストリーズ 研究開発

本部 研究部 次長）

聞き手：蘆澤雄亮（デザインミュージアムセレクト委員会委員長）



貝印・紙カミソリ

ミュージアム委員会

今迄に収集した製品をデザインミュージアム in AXISにて年間を通じて常設展示を行うと共に、貸出による教育、産業、生活へといった文化的貢献に根差した取組みを実施。同時に、収蔵品の3Dデータ化を進め未来に向けたコレクションの収蔵、展示体制の構築を図る。

■デザインミュージアム in NAGANO

JIDAデザインミュージアム常設館が入る長野市信州新町「ミュゼ蔵」の閉館にともない、管理主体である長野市主催による閉館回顧展を開催。DMセレクトVol.22巡回展と合わせ信州新町での26年間のミュージアム活動を製品展示とパネルで紹介。



日本デザイン団体協議会
The Council of the Design Association of Japan



デザインミュージアム in NAGANO

タイトル：「ありがとうミュゼ蔵 信州新町で実現したJIDAデザインミュージアム」

主催：長野市立博物館

期間：2021年12月1日～12日

場所：長野市信州新町支所 市民ホール

■ジャパンデザインミュージアム構想

研究発表会 in 豊島区 シンポジウム 2021

日本デザイン団体協議会（D-8）は、総合的なデザインミュージアムの実現を目指して継続的な活動を展開。

タイトル：WHAT 'S THE DESIGN MUSEUM ?

主催：日本デザイン団体協議会（D-8）

期間：2021年12月13日 16:00～19:00

場所：としま区民センター 6F 小ホール

■デザインミュージアム in AXIS

デザインミュージアムセレクトVol.22で選定された製品の常設展示を、年間を通して計画。今年度はストックヤードの整備により収蔵品を継続展示。

期間：2021年4月～2022年3月（年3回計画）

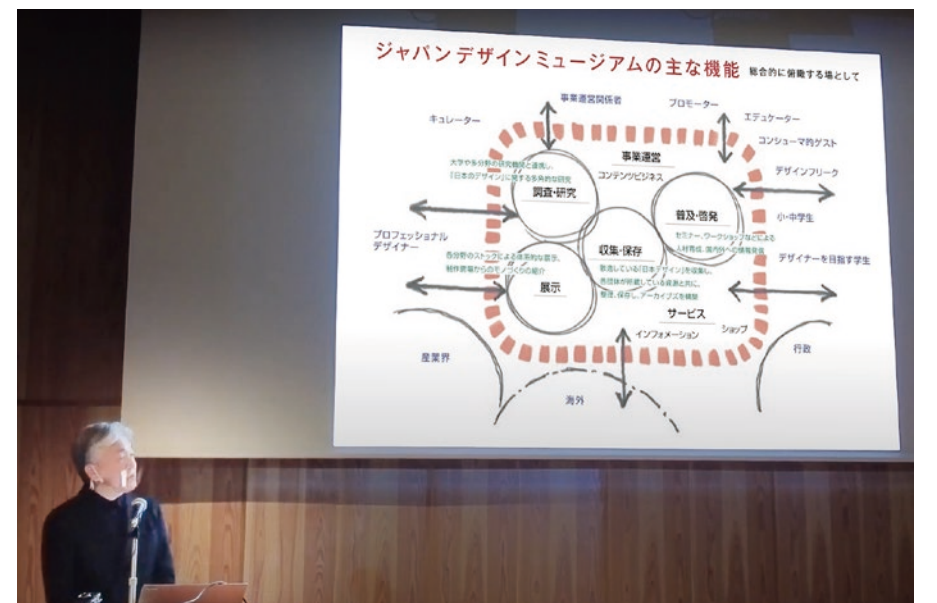
場所：デザインミュージアム in AXIS（JIDA事務局内）

【デザインミュージアム支援会】

継続したミュージアム運営を行う為に、「JIDAデザインミュージアム支援会」参加のお願いを配信し、活動に賛同を頂ける方々からの支援金を募る。このような状況下の中、本年度も多くの企業、個人会員の皆様よりご支援を頂きましたこと御礼を申し上げます。



デザインフォーラム



ジャパンデザインミュージアム構想 研究発表会



デザインミュージアム in AXIS

調査・研究事業

担当理事
松本 有社会課題研究委員会 委員長
中原 俊三郎素材加工研究委員会 委員長
中島 修プロフェッション委員会 委員長
吉田 晃永

社会課題研究委員会

社会課題研究委員会は、産業技術総合研究所、東京消防庁、NPO法人Safe Kids Japanとの共同研究会「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」として、最近の事故の事例や分析の報告をもとにした、事故予防に関する共同研究会を合計6回/年(2021年4・6・8・10・12月、2022年2月)行なった。この共同研究会は、幼児の傷害事故予防を主テーマとした研究会として始まり、近年は、高齢者事故予防まで対象を広げた研究を行なっている。2020年9月から1年間参加していた研究の、三菱財団社会福祉事業・研究助成のプロジェクト「ベランダ等高所からの子どもの転落を予防するプロジェクト」(主宰:NPO法人Safe Kids Japan山中

龍宏理事長)は、コロナ禍の影響で半年間研究活動が延期されたが、ようやくJIDAが開発した実験器具を用いた子供たちの検証実験を行うことができた。緑園えなば保育園の協力で行われた実験の様子は、NHKの情報番組でも放送された。

また、川崎市・東京工業大学・産業技術総合研究所の三者が、高齢者の福祉機器の開発で共同研究(伴走型支援)を行なっており、その研究をサポートする目的で「高齢者の身体保持を考慮したプロダクトデザイン(テーブル仕様)」の考案と試作を行った。さらに「東工大・産総研 × JIDAコラボセミナー」として、高齢者の生活を中心に据えた製品デザインや福祉製品のイノベーションを創出するための提案をWebセミナーで紹介した。

素材加工研究委員会

素材加工研究会は、これまでにJIDA STANDARD SAMPLES「1」、「2」、「3」、「4A」、「4B」、「5」のサンプル帳を開発し頒布をおこなっている。今年度は「6」として木のサンプル帳『WOOD』の開発を進め2022年6月の発刊の目処が立っている。2021年度の頒布実績は、JIDA STANDARD SAMPLES全67冊。内訳は「1」:18冊、「2」:13冊、「3」:6冊、「4A」:17冊、「4B」:13冊。KIDS DESIGN TOOLSの頒布実績は全15セット。内訳は、子どものからだパステータ集:7冊、2.5Dキッズパーツ:3セット、2Dキッズモデル:2セット、3Dキッズモデル:2セット。子どものからだ図鑑:1冊となった。

また2003年からスタートし継続的にやっている勉

強会は、素材や加工方法等、ものづくりやデザインに関して役立つ有益な情報を共有することを目的におこなっている。

今年度はウェビナー形式で以下の勉強会を2回開催した。

1. 第96回勉強会

『成形と同時に再現!環境にやさしい
二次加工レスCMF「光反射テクスチャ」』
発表者:株式会社アイリス 第一生産部
持田 直希氏・吉野 賢輔氏
開催日:2021年6月4日
場所:ウェビナー形式 参加者:25名

2. 第97回勉強会

『特殊射出成型技術による
製品の「軽量化」「外向向上」の実現』
発表者:旭化成テクノスプラス株式会社
渡邊 元気氏・伊藤 瞬氏
開催日:2021年12月3日
場所:ウェビナー形式 参加者:17名

プロフェッション委員会

インダストリアルデザインが広く日本の産業社会で活用出来る為、デザインビジネス研究及び、日本弁理士会意匠部会と連携した契約研究、D-8(デザイン8団体)保護研究会との共同研究を行った。委員会は6回開催した。開催場所:JIDAギャラリー(Zoom)

1. 日本弁理士会意匠部会との共同研究

デザインインフラ研究での新たにロイヤルティ契約書雛形が90%完成契約書の使用方法を含む注意点を相談やワークショップ形式にて、公開記念イベントを日本弁理士会と連携で行う計画作りを実施した。2022年8月にはロイヤルティ契約書公開のセミナーを実施予定である。

2. ビジネスモデル研究

委員会実施事などで委員の会社や事務所にて実際に行われているビジネスモデルの情報を収集。次年度にはこれらを系統立てて整理し、新ビジネス

形態とそれに則した契約書や取引ツール、知財活用方法などをまとめ、後に情報公開を行う計画である事を委員会内にて同意を得た。

本年度では委員会にて、NFT(ブロックチェーンを応用した非代替性トークン)サービス企業に委員会にてNFTの構造や知財活用の可能性、サービスの今後の展望などを説明してもらい、今後の情報協力関係をつくった。また中小企業診断士企業診断士なども委員会に参加してもらい他業種との連携によるビジネスモデル研究の場としての土台づくりを行った。

3. D-8権利保護研究会

デザイン業を取り巻く現状を把握するためのアンケートを実施するため、これらの雛形などをJIDAより提供した。

4. 展示会

第7回パッケージデザインパビリオン in TOKYO PACK(2022年10月12~14日開催)。

弁理士会ブースおよびJIDA ブースの連携展示に向けての準備(デザイナーエリア=東日本ブロック担当、弁理士会ブース=プロフェッション委員会担当)弁理士会ブースおよびJIDA ブースの連携展示に向けての計画及び擦り合わせを日本弁理士会と行った。パッケージデザインパビリオン内にJIDA ブース2コマを無償で借りれる事が決定した。

5. 連携、委託

1. 東日本ブロック

デザインビジネス研究会と連携して委員会や職能基準研究の実施計画を立てた。

2. 新潟医工連携プロジェクト

参加希望者と現地との計画擦り合わせを行った。

3. 茨城県行方市プロジェクト

東日本ブロックと連携したイベントサポートを検討した。

4. 東京都中小企業振興公社発行の「デザイン活用ガイド・令和4年版」改訂作業の受託、実施した。

6. 相談対応

会員の弁理士による知的財産無料相談を実施。事務局経由メールによる相談。5件行った。



デザイン契約書式と解説



「ベランダ等高所からの子どもの転落を予防するプロダクト」クルクル手摺の実証実験の様子



ベランダの柵を考えるプロジェクト



東工大・産総研 × JIDAコラボセミナー



左:木のサンプル帖の組み立て 上:JIDA STANDARD SAMPLES 6

3つの研究カテゴリ



D-8権利保護研究会



デザイン活用ガイド・令和4年版

交流事業

担当理事
佐藤 敏明



担当理事
御園 秀一



インハウス委員会 委員長
堀田 峰布子



渉外委員会 委員長
井上 雅弘



令和3年度インハウス企画定重点方針 ～企業活動の社会発信と学生交流を支援～

インハウス委員会

【サマリー】

インハウス委員会では、開かれたインハウスの魅力を伝える目的から下記活動を重点化。

①ブラックボックスに見えるインハウスデザイナーと組織活動の社会発信

②学生と若手インハウスデザイナーの交流や相談会の支援

③各社のサークュラー・エコノミーへの取り組みの社会発信

企業活動の社会発信と学生交流を支援する観点から、クリエイター就活支援を行うViViViT社のイベントを2件後援したほか、「伊藤邦久氏スケッチセミナー」、「第34期JIDA女性研究会成果報告会」を実施。

【成果報告】

■ViViViT社後援 #デザナレちょい見せ Vol.8

「デザイナーの目標設定、定量で見るか? 定性で見るか?」

・方式: ZOOM オンライン開催

・開催日: 2021年8月25日

・事業概要 (公益)

・テーマ: 「ViViViTイベント後援」

イベントテーマに沿った登壇者のライトニングトークと視聴者からの質疑応答。

「デザイナーの目標設定」をテーマに、佐藤理事 (江崎グリコ)、杉本真利子氏 (ココネ)、河西紀明氏 (DMM.com) の3名が実際に行っているデザイナーの目標設定・管理について対話。

■ViViViT社後援 デザインカンファレンス

「あつまるデザナレ 2021」

・方式: ZOOM (オンライン)

・開催日: 2021年9月17日 (Day1) -18日 (Day2)

・事業概要 (公益)

・テーマ: 「ViViViTイベント後援」

イベントテーマに沿った登壇者のライトニングトークと視聴者からの質疑応答

現場の最前線で活躍するデザイナーが集結し、堀田インハウス委員長 (電通) がDay1で「次世代を担うデザインリーダーの役割と育成」、Day2で「なんのためのブランドデザイン?」に登壇、井上氏 (キヤノン) がDay2の「実際にどんなプロセスでデザインしているか、今からお見せします」に登壇、明日から活かせるデザインナレッジを発表した。

デザイナーの目標設定、
定量で見るか? 定性で見るか?

江崎グリコ株式会社
佐藤 敏明氏

合同会社DMM.com
河西 紀明氏

ココネ株式会社
杉本 真利子氏

presented by
VIVIVIT 8.25 WED 18:00~
#デザナレちょい見せ Vol.8

おいしさと健康
Glico

cocone

DMM.com

「デザイナーの目標設定、定量で見るか? 定性で見るか?」

DAY1 9.17 HR / DAY2 9.18 Production @zoom

デザイン実務のホットがあつまるカンファレンス

井ノ上 学
キヤノン株式会社
総合デザインセンター 部長
1991年金沢美術工芸大学卒業。キヤノン株式会社入社。美国のRCA AIDEに留学し2001年帰国。2002年にハリウッドなど映画制作現場で専任としてONUMA EOS SYSTEMを担当し、国内外のデザイン賞を数多く受賞。2010年からプロダクトデザイン部長として、カヌー・ラング・機軸機軸/ネットワークカメラなどのデザインマネジメントを統括している。2019年には IF DESIGN AWARD 審査員を務める。

堀田 峰布子
株式会社電通
ビジネス・トランスフォーメーション・クリエイティブ・センター 欧プロダクト&コンタクトデザイン部 部長
大手電器メーカーのプロダクトデザイナーを経て、通商産業省でプロダクトデザイン、UXデザインを統括。その後、グローバルメーカーで日本市場に向けたプロダクトランディングとマーケティング、PRのマネージャーに。電通入社は、UX・サービス・プロダクトに精通するビジネスデザインの専門家として活動。IF Product Design Award、red dot design award、グッドデザイン賞などに受賞多数。HCD-Nat認定 人間中心設計専門家、日本人間工学会認定 人間工学専門家、DENTSU DESIGN FIRM 主宰。

「あつまるデザナレ 2021」

「手描きアイデア・スケッチによるデザイン提案」ワークショップ

■「手描きアイデア・スケッチによるデザイン提案」

ワークショップ

・方式: AXISギャラリー (ワークショップ)

伊藤邦久氏をお迎えし、6名の参加者の描く車両をワークショップ形式で指導を行った。

・開催日: 2021年12月23日

・事業概要 (公益)

・テーマ: 「参加者6名の提案力を高めるマーカースケッチ・ワークショップ」

■第34期JIDAインハウス女性デザイナー研究会報告

・方式: ZOOM (オンライン)

・開催日: 2022年2月25日

・事業概要 (共益)

・テーマ: 「わたしを知る、あなたを知る。-シアワセの作り方-」

コロナ禍のもと、人々の権利や生き辛さ、他者からの固定概念等に目を向けた人権分科会と働く女性の悩みに対して気軽な解決策を提案する「JIDAROT CARD」で新しいアイデアを試すきっかけをつくる人間分科会に分かれ、誰もが日々抱えている心や身体の不調を分解・分析し、手を差し伸べる方法を当事者目線で一緒に考える機会を企画した。

渉外委員会

国内・国際連携を通じ

日本のデザインの価値向上への寄与を目指し活動

【国内・国際連携事業】

コロナ禍の影響で昨年度延期となった海外でのイベントはオンライン開催、デザインフォーラムへの講演者派遣は事前録画での登壇となり、既に当たり前となった新しい方式を活用しながら実施。海外デザイン団体や企業からの要請 (主にデザイン賞の日本での情報リリース・展示会関連の協力) は更なる拡大へ繋がっており、こうした中で日本のデザイナーの海外進出に向けた支援は協会の重要なミッションのひとつであり今後の課題でもある。

■Asia Design Assembly(ADA) 代表者会議と

ISDWチューター会議 (共にオンライン)

日本(JIDA)、韓国(KAID)、台湾(CIDA)の代表によるオンライン会議を主催。前年度から延期され夏にオンライン開催されたISDWの企画がメインテーマ。さらに学生のサポート役として三カ国10名のチューターをまとめ、初となるオンラインワークショップに向けた企画運営に関する協議を継続した。

代表者会議: 2021年3月6日、4月17日、8月27日
／チューター会議: 2021年5月15日、6月19日、7月10日、8月7日

■ISDW2021 (International Student Design Workshop) (オンライン)

体験活動事業との連携によるISDW2021 (8月16日～8月27日) は三カ国からの参加学生67名、チューター10名、JIDA関係者3名によって開催。



日本(JIDA)、韓国(KAID)、台湾(CIDA)のメンバーによるオンライン会議



JIDAインハウス女性デザイナー研究会報告の様子

交流事業

初のオンラインによる2週間に渡るワークショップを成功裡に完了した。Chairとして全体の取りまとめとオープニングとクロージングスピーチ、加えて中間報告会での議事進行を担当。MiroとZoomによる今回のISDWの方式が今後のオンラインワークショップの標準の一つになると思われる。

■CHINAPLASでのビデオ登壇の企画・監修事業 (11/17~5/30)

昨年に引き続きオンライン開催された中国最大級プラスチック関連の展示会への協力。広報委員会との共同の受託事業であり、展示会イベントの一つ「Design×Innovation」における登壇者の決定から全体調整、ビデオ撮影と編集、さらには講演に関する会員への告知を行う。今回は太刀川理事長と

ソニークリエイティブセンター長の石井大輔氏にご登壇いただき、当初2022年4月開催予定が5月末のバーチャルショーとして実現の運びとなった。ビデオ登壇並びに引き続き行われたリアルタイムのオンラインディスカッションにおいて両氏の講演はいずれも大変高い評価を得た。

登壇日程：2022年5月30日

■WDO(World Design Organization)連携

ー WIDD(World Industrial Design Day) イベント (オンライン)

デザイン・ダイアログには9名の大学生と聞き手として太刀川理事長が参加。広報と連携しJIDA会員への告知を行った。

ー WDO/World Design Impact Prize 2021審査

対応 (10/14~11/1)

理事長、副理事長を含めたJIDAメンバーによるオンライン審査を行い対象10作品からベスト3を選出。JIDA内審査のプロセスと共に、選考結果をWDOに提出した。

ー WIDC (World Industrial Design Conference) 2021 (開会式10/22)

開会式に向けた太刀川理事長のスピーチビデオの制作、翻訳作業、先方事務局との調整業務を行った。

■2021TEDA CUP (5/1~12/17) (オンライン)

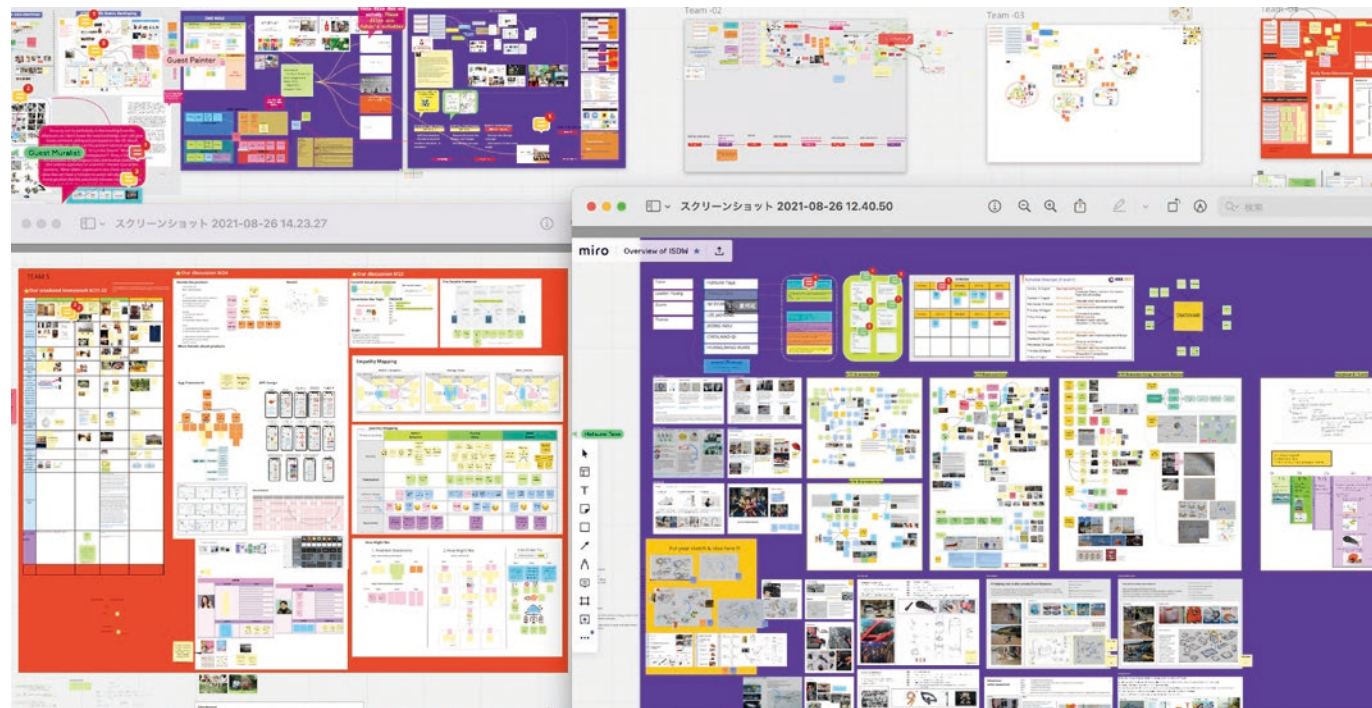
中国天津の経済特区TEDAが地元政府機関と共催して毎年開催される学生を対象とした国際的デザインコンペ。プロダクト、ビジュアル、アニメーション

の3部門で応募総数は15,000近い。JIDA会員への告知（広報との連携）を行うとともに、オンラインでの審査とビデオメッセージ対応を行った。

■海外デザイン賞や各団体事業の日本での広報支援

各国のデザイン団体などの依頼を受け、海外デザイン賞についてエントリー情報のJIDA会員への情報発信、並びにJIDAウェブサイトと各種SNSへの展開を行った。(広報委員会との共同事業)

GIDA2021 / SKY DESIGN AWARDS 2021 / World Design Impact Prize 2021



ISDW2021 Miroによるオンラインディスカッション

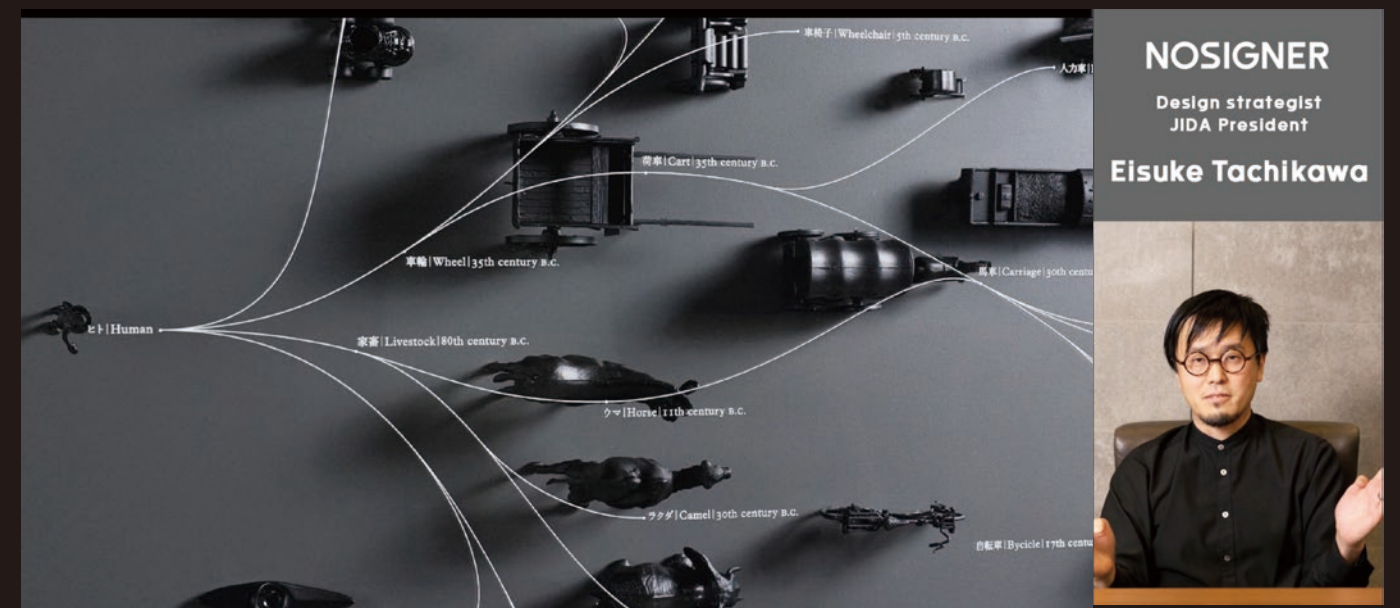


GIDA 2021



2021 TEDA CUP

CHINAPLAS DxI Gallery Forum - CMF Design & Technology



「進化思考 - 持続可能なイノベーションのために自然から学ぶ」

登壇者：太刀川 英輔氏 (JIDA理事長、Nosigner代表)



「Multi Species - 共生するデザイン」

登壇者：石井 大輔氏 (ソニーグループ株式会社 クリエイティブセンター センター長)

セミナー他事業

70周年委員会

周年事業をきっかけとした

内部連携の強化と外部への情報発信

70周年委員会は、周年事業を次年に控えた69年目にやるべきこと、準備することを掲げることはじまり、主に協会内部の連携活動を実施した。特に、新しく策定された新ビジョン“Designing beyond Design”を協会内部に浸透することを目指し具体化する作業を特別セミナーとして実施として、協会外部への発信として政府機関、デザイン団体、先進企業らと課題共有などを行った。進行の工夫として、全国展開を視野に入れて70周年委員会とブロック交流会併せた定期会合で実現に向けた準備活動やセミナーを実施した。

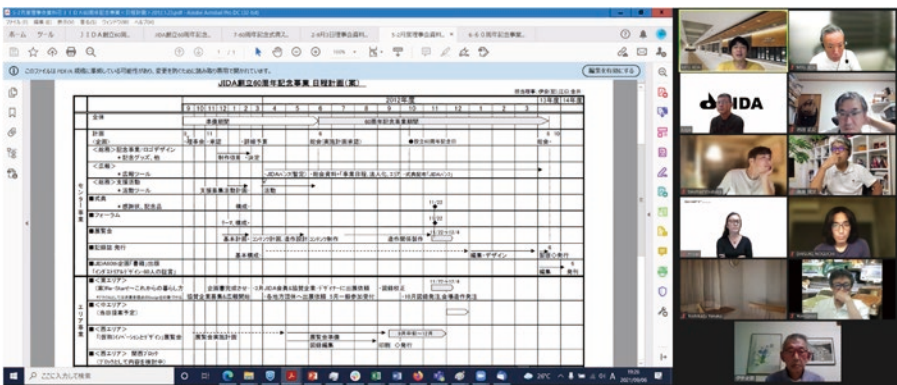
■定期オンライン会議

70周年事業の方向性や全体計画を、60周年事業担当者や全国ブロック長などがメンバーとして参加

し、毎週月曜日19:00から、オンラインミーティングを重ね計画を立案した。

セミナー委員会

新しい領域でのデザイン活用を促進するため、
セミナーを通じて情報発信を実施。



70周年事業 定期オンライン会議

本年度は70周年の前年に当たるカウントダウンイヤーと位置づけ、69周年を掲げたブロック長を中心とした「JIDA Rock Night」を2回オンライン開催し、JIDA内外へ全国のブロック活動の報告や、JIDA新ビジョンを受けて、JIDAを超えるべき課題などを積極的に議論した。また、協会の枠を超えた、日本のデザイン政策や、日本の産業とデザインの関係を議論する「JIDA Day & Night」を開催した。



JIDA Day & Night



■JIDA Rock Night Vol.1

「デザイン その先のデザインへ」

今期策定した新ビジョンを発信する初回イベントとして、ゲストに日本を代表するデザイン思考の先導者石川俊祐氏を迎えたディスカッションと、全国組織を代表したブロック長5名のプレゼンテーションを軸にした対談を行った。
開催日: 2021年8月17日
会場: Aichi Sky Expo (愛知県国際展示場)
オンライン配信
申込: 104名

■JIDA Day

「日本のデザイン政策の未来を考える」

政府と有力デザイン団体の事例を元に、日本のデザイン政策について、関連なディスカッションを実施。
登壇者: 経済産業省 商務・サービスグループ デザイン政策室長 俣野 敏道氏、公益財団法人 日本デザイン振興会 理事長 深野 弘行氏
開催日: 2022年1月25日
会場: 株式会社Too 虎ノ門スタジオ(オンライン配信)
申込: 153名

■JIDA Night

「日本の産業とデザインの関係を更新する」

デザイン先進企業2社の事例をもとに、デザイン経営に関わる関連な意見交換を実施。
登壇者: マツダ株式会社 常務執行役員 デザイン・ブランドスタイル担当 前田 育男氏、富士フイルムホールディングス株式会社 執行役員 デザイン・ブランドマネジメント掌管 堀切 和久氏
開催日: 2022年1月25日
会場: 株式会社Too 虎ノ門スタジオ(オンライン配信)
申込: 98名

■JIDA Rock Night Vol.2

「我々は何を超えるべきか」

正/副理事長、正/副ブロック長7名を登壇者として、周年事業で実現すべきことの提案と議論を行い、本事業に向けた認識を深めた。
開催日: 2022年1月25日
会場: 株式会社Too 虎ノ門スタジオ(オンライン配信)
申込: 142名

ブロック交流委員会

全国5ブロックの会員交流を流動化させるための委員会活動

今年度は、中部・北陸・関西ブロック長が新任のため、早々に委員会を開催し、相互の情報交換を実施した。70周年委員会にはブロック長も参加しているため以降の情報交換は、70周年定期オンライン会議へ開催集約し推進した。また、2020年度に開催延期となった医療機器展 Medtec に初出展した。医療関係メーカー・医療関係団体との交流とともに、出展企業のブロックを横断した相互交流による研鑽を実現できた。

■ブロック交流委員会MTG

開催日時: 2021年7月7日18:00 ~ 20:00

場所: オンライン

参加者: 東日本ブロック長 高橋 翼

中部ブロック: 野口 大輔、後藤 規文

関西ブロック: 江口 海里、是枝 靖久、竹綱 章浩

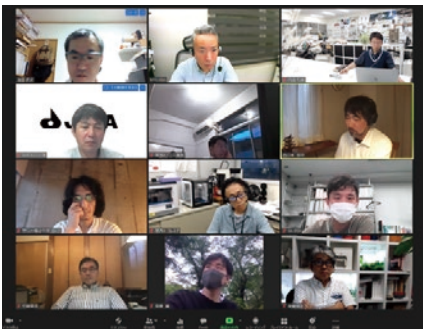
北陸ブロック: 池田 武史、内田 和美

西日本ブロック: 弥中 敏和、鈴木 スバル

セミナー他事業 担当理事: 小幡 真也・稲垣 楊平

■国際医療機器展 Medtec Japan 2021出展

2020年3月に開催予定だった Medtecへ出展した(COVID-19の影響で1年開催延期)。コロナ禍でもあり、前半は例年の開催に比べ大幅に来場者数が減ったが、後半は来場者数も増え、期間合計8,807名の来場者があった。(2019年25,407名)
開催期間: 2022年4月14日~16日
場所: 東京ビッグサイト 西ホール
出展者数: 14社



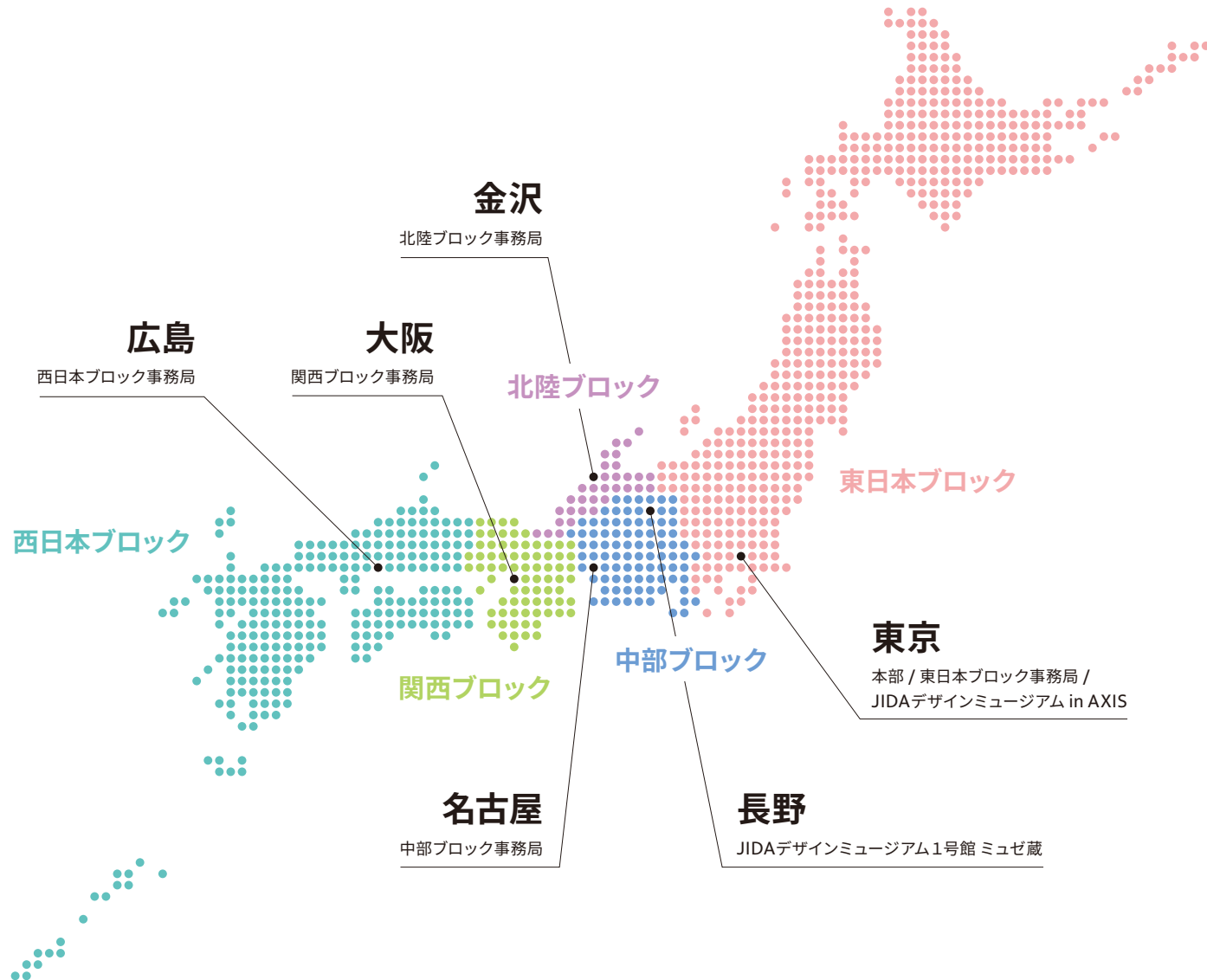
ブロック交流委員会MTG



Medtec Japan 2021

6 事業横断活動

活動ブロック図



全国	正会員（個人）	485人	東日本	正会員（個人）	300人	関西	正会員（個人）	95人
	正会員（団体）	14団体		正会員（団体）	10団体		正会員（団体）	2団体
	賛助会員（個人）	14人		賛助会員（個人）	7人		賛助会員（個人）	2人
	賛助会員（団体）	71団体		賛助会員（団体）	49団体		賛助会員（団体）	5団体
	学生会員	11人		学生会員	11人		学生会員	1人
中部	正会員（個人）	52人	西日本	正会員（個人）	20人	海外	正会員（個人）	3人
	正会員（団体）	1団体		賛助会員（個人）	1人		賛助会員（個人）	1人
	賛助会員（団体）	15		賛助会員（団体）	2団体		賛助会員（団体）	2団体
	学生会員	11人		学生会員	11人		学生会員	11人
	学生会員	11人		学生会員	11人		学生会員	11人
北陸	正会員（個人）	15人	海外	正会員（個人）	3人		正会員（個人）	3人
	正会員（団体）	1団体		賛助会員（個人）	4人		賛助会員（個人）	4人
	賛助会員（個人）	4人		賛助会員（団体）	15		賛助会員（団体）	15
	学生会員	11人		学生会員	11人		学生会員	11人
	学生会員	11人		学生会員	11人		学生会員	11人

2022年3月31日現在

ブロック活動

東日本ブロック

新しい社会の普通にも慣れてきた今年、徐々にこれまで行ってきた活動を東日本の仲間と熟慮の末、取り戻してきたことは素直に嬉しい事実だ。それと同時に来るべき次の年への準備を重ねてきた一年でもあった。長年、東日本の課題のひとつであった地方の活性化。これにも大きな筋道を見出すことができた。そしてJIDAは来年70周年を迎える。この記念すべき年に向けて、自分たちは何ができるのか、そしてJIDAとして何をすれば新しい世代へ向けて残せるのかを考えてきた。長く助走をとることにより遠くへ進めるように。今年一年を振り返ること、70周年への序奏としていきたい。

東日本ブロック運営委員会

高橋 翼(ブロック長)、佐野 正(副ブロック長)、堀内 智樹(副ブロック長)、
浅香 秋也、神瀬 泰二、木下 陽介、塩田 英人、蓮見 孝、本田 圭吾、吉田 晃永 以上10名

デザインスキルユニット

- ・デザイナーズスキル研究会(登 豊茂男)
- ・ライティングデザイン研究会(馬場 美次)
- ・JIDA UX研究会(佐野 正)

■デザイナー井戸端会議

担当：デザイナーズスキル研究会/代表 登 豊茂男
デザインビジネスの手段として使えるスキルを研究し、実践で生かせるよう参加会員でざっくばらんに話し合う集いの場。第2回目と第3回目は「デザイナーってどうやって儲けているの?」というテーマに沿って開催。現実味のあるテーマにフリーランスデザイナーやインハウスデザイナー、学生、教員などそれぞれに「儲ける」解釈が様々だったが、それぞれの立場でデザインを主業務としながら精一杯儲けている工夫やクライアントとのかわり方があり、参加者同士刺激を受けていた。またIT化、DX化にデザイナーとしてどう関わっていくのか?という話ではJIDAという組織をうまく利用し、「インダストリアルデザイン」の新たな土台を形成していく時代になっているという意見に共感する参加者が多かった。次回はリモート開催とし、参加者から意見があったZOOMの「ルーム」を使いながら、少人数のグループで議論、最後にグループで意見を発表してもらうなど、大人数が適切な議論ができるような工夫をしていきたい。

・日時:第2回2021年10月28日(木)/第3回2022年2月25日(金)

・参加人数:第2回会場参加6名 リモート参加9名 計15名/第3回 リモート参加 16名

・場所:JIDAギャラリー

・運営メンバー:鉢呂、河端、登



デザイナー井戸端会議

東日本ブロック ブロック長
高橋 翼



東日本ブロック

デザインマネジメントユニット

- ・デザインビジネス研究会 (小林 浩一)
- ・デザインメーカーズ研究会 (長谷川 真之)

■TASK事業2021

担当:デザインビジネス研究会/代表 小林 浩一
TASK事業は6年前からの取り組み、前任の堀越代表から小林が引き継ぐ形で、例年実施している。以前は半年の期限で6回程度セミナー形式の会合で行われていた。

2021年度と2020年度は、コロナ禍の制約から、リ

モートやビデオレクチャーの形へ枠組みを変更して、地場工場や事業者の商品開発の課題にデザイナーがアドバイスを実施した。

- ・実施期間:2021年7月から22年2月末日まで
- ・委嘱元:荒川区経営支援課
- ・事業枠組み:4区(台東区・足立区・荒川区・葛飾区)に所在する工場事業者などが抱える商品開発やデザインにまつわる課題を、JIDAデザインビジネス研究会のメンバーが担当を受け持ち、個別に助言(デザインのアドバイス)を行う。
- ・ビデオレクチャー:各参加事業者は、JIDAサイトに掲載するビデオを視聴し、デザイナーの活用方法

や業務依頼等の留意点を学ぶ。

- ・アドバイス方法:リモート又は対面にて、担当デザイナーが事業者のテーマへ助言を行う。(1事業者10時間程度)
- ・2021年度参加事業者:6社
 1. 広沢プラスチック / 担当:三津井 宏
 2. ミユキ精工 / 担当:下江 廣満
 3. 岩城工業 / 担当:小林 浩一
 4. なおき工房 / 担当:北村 洋一
 5. マツヤ刺繍 / 担当:吉田 晃永
 6. ザオー工業 / 担当:松本 有



開発例:なおき工房「アニマルマスク」

担当:北村 洋一

従来から企画検討中の事業社の自社開発テーマ「アニマルマスク(紙製お面)」を、より魅力的な製品にするため、TASKデザインアドバイスに参加。TASK参加デザイナーのアドバイスにより、防疫マスクと組み合わせて使う「紙製口元カバー」として企画見直しとデザイン修正に取り組む。完成作品を「東京TASKものづくりアワード」に応募、奨励賞を受賞。

開発例:岩城工業「ソロテーブル」

担当:小林 浩一

デザイナー持ち込みによる木工加工とスチール棒曲げ加工を組み合わせた製品の企画。キャンプ用ソロテーブルをプロトタイプ化。製品化を前提とした試作。曲げ加工を応用し高さを変えて使う機能を加えた加工のトライを行なった。

開発例:広沢プラスチック工業「技術リサーチ」

担当:三津井 宏

射出成形工場のテーマ「新技術の開発/少ロット・金型不要・コスト訴求への対応」。小物射出成形を専門とする事業者から射出成形の技術発展に転用できる新技法として「3Dプリンター」の導入と、導入にあたり従前の成形技術との併用や置き換えを、デザイナー視点で応用や製作できる製品像を明示。プロトタイプのビジュアル化や仮想の提案などを行い。事業者が技術の応用をイメージできるようなアドバイスを実施。現在、成形工場の設備として具体的な導入に向けて検討中。

■第3回 京都インターナショナルギフトショー 2022

担当:デザインメーカーズ研究会/代表 長谷川 真之
例年は東京開催のギフトショーに参加をしていたが、今回は新たな試みとして、京都のギフトショーの『ACTIVE CREATORS STORE』のブースに出演をした。デザインに特化した商品のみを集めたコンセプトゾーンで、商談だけでなくその場で小売販売も行えることが東京との最大の違いになる。会場のサイズ感はコンパクトで回しやすい為、来場者は自分たちの目的以外のブースも丁寧に回っている印象を受けた。印象としては、その場で小売販売もすることができる『ACTIVE CREATORS STORE』ゾーンは吸引力があった様思う。

接客については、一人ひとりにしっかりと時間をとることができた為、十分に展示品の説明することができた。来場者については、ECサイト関係者が最も多くブースに立ち寄っていた印象がある。また「京都の伝統産業をより深く知りビジネスに繋がるプログラムを擁しバイヤー誘致を図る」という開催概要にもある通り、「京都のモノ」を探しに着ているバイヤーが多かった。他、ホテル関係の来場者もブースに立ち寄っていた印象が強い。大阪、京都等近畿近郊の来場者が最も多く、岐阜や九州などの来場者も多く見られた。新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置が実施されている状況で、入場時検温やアルコール消毒など感染対策をとったギフト・ショーではあったが、来場者数は延べ18,553人。JIDAブース来場者は

会期合計:110名程度

前回出展した東京ギフトショー(第91回東京インターナショナルギフトショー 春 2021第9回 LIFE × DESIGN 来場者数13,748人)を5000人近く上回る結果となった。

・開催日:2022年3月9日(水)・10日(木)

・場所:京都市勧業館みやこめっせ

・主催:JIDA 東日本ブロック デザインメーカーズ研究会、株式会社ビジネスガイド社 インターナショナル・ギフト・ショー事務局(大阪支社)

・出展者:320社

・JIDA会員出展者:計6名(順不同)

株式会社COMULA 野口 大輔、後藤 麻衣子
イヴレス株式会社 米山 凜、韓 翔
BALIISM Japan株式会社 長谷川 真之
アサカワデザイン 朝川 賢一、三宅 佳子



第3回 京都インターナショナルギフトショー 2022



東日本ブロック

デザインソーシャルユニット

- ・エコデザイン研究会（本田 圭吾）
- ・電車ワークショップ（高橋 翼）

■EcoDesignWorkshop/NextEcoDesign展 2021

担当:エコデザイン研究会/代表 本田 圭吾

東日本ブロックエコデザイン研究会は今年2021年12月、18回目となる「NextEcoDesign2021」展を開催した。NextEcoDesign展は、デザインを学ぶ学生とプロのデザイナー（会員）が協働した作品を紹介するもの。2020年度はコロナ禍の大きな影響を受け、活動の休止を余儀なくされたが、今年度はオンラインで集まった19名の学生とともにワークショップを通して、暮らしを見直し環境に配慮する「未来をつくるデザイン」として様々なエコデザインに取り組んだ。自然エネルギー・社会システム・インテリアプロダクト・家電・輸送機器等様々なエコデザインのコンセプトをその成果として、「サステナブルデザインの未来シナリオパネル」や「エコデザインの提案モデル」として展示した。エコデザイン研究会は、これからも暮らしをゼロから見直し環境に配慮する「未来をつくるデザイン」を目指し、地球の環境収納力に見合った「人と自然が共生する持続可能な暮らし、生き方」を念頭に、さまざまな未来志向のデザイン提案に取り組んでいきたい。

・出展者: JIDA正会員研究会メンバー 浅井治彦、山崎和彦、石渡文一、小林浩一、佐藤徹、本田圭吾、福田一郎、角南健夫、神田剛、長谷川真之、中島修、

佐野正、スベダギジャパン

学生 関東地区のデザイン学生 共立女子大学、桑沢デザイン研究所、東京造形大学、東京造形大学大学院、東洋美術学校、日本大学芸術学部、明星大学、武蔵野美術大学、読売理工医療福祉専門学校より新井弥聖、LEE SUPIN、太田早紀、岡田柚香、HE LIHENG、川瀬寛人、北村泉、志村恵梨、章智敏、鈴木杏奈、須永祐介、野間彩花、福本修平、藤井美穂

・サステナブルデザイン&エコデザイン基本セミナー: 8月29日(日)「サステナブルな社会を作る未来デザインシナリオ」場所: オンライン Zoom及び (AXISギャラリー) 学校混成のグループワークショップで、取り組むテーマをきめてコンセプトプレゼンテーションまでを実施。

・オンライングループワーク: グループごとでオンラインまたは対面集合の上、交流の機会を設定し、各ワークショップ発表に向けて、サブテーマに基づいたグループリサーチ作業とサブテーマに基づいた各々のデザイン(シナリオ)提案制作を進めた。

・9月5日(日) グループワーク①(Zoomを使用)

・9月26日(日) グループワーク②(Zoomを使用)

・10月10(日) ワークショッププレゼンテーション: 提案制作進捗レビュー(中間プレゼンテーション) Day1 / 場所: 東京ミッドタウン・デザインハブ インターナショナルリエゾンセンター

・10月31日(日) グループワーク③(Zoomを使用)

・ワークショッププレゼンテーション: その成果を「サステナブルデザインの未来シナリオ」パネルや様々な「エコデザインの提案モデル」に仕上げた。

・11月14(日) 提案発表出展者顔合わせ(最終プレゼンテーション) Day2 / 場所: 東京ミッドタウン・デザインハブ インターナショナルリエゾンセンター

・12月10日(金)～12月12日(日) 展示発表 / 場所: 東京ミッドタウン・デザインハブ インターナショナルリエゾンセンター

■電車ワークショップ

担当: 東日本ブロック ブロック長/高橋 翼

今年で6年目となる親子を対象としたデザインワークショップ。木材端材の組合せでカタチを考え、組み立て、色を塗り、台車と合わせて電車を作る。最終的にはプラレールに連結をして走らせるので、作って遊ぶことのできるワークショップ。会期中は台風が上陸し、また東京都のコロナ感染者数が過去最高になるなど条件の悪いタイミングでの開催となったが、無事に対面形式で開催ができ、35名の親子が参加をした。長年続けてきたことで、参加者の中には、前回は参加をして、今年も楽しみにしていてまた参加をした、という嬉しい声も聞かれた。次年度は東日本の他のメンバーとも協力し、地方の小学校での開催やワークショップの種類を増やすことで、参加者の対象年齢も考慮した内容へと進化させていきたい。

・日時: 2021年8月8日(日)、9(月)

・場所: 東京ミッドタウン・デザインハブ インターナショナルリエゾンセンター

・参加者: 参加親子35名



電車ワークショップ

中部ブロック

中部ブロックブロック長
野口 大輔



中部ブロックでは、ブロック長が変わり、組織図も大きく変更するなど心機一転の年となった。事業としては、二つの委託事業で中小企業向けのデザインセミナーを行ったり、中部地区最大の展示会であるメッセナゴヤに中部ブロックとして初参加するなど、デザイナーの活用方法やJIDAの活動をPRする機会が多い一年となった。しかし、組織変更した意図であった活動の中心の愛知以外の地域とのつながりを強める活動や、デザイン協会へ変わるにあたり中部ブロックとして目的を明確にするところは詰め切ることができなかった点は来期への課題と言える。

■研究事業-1 Beyondサロン

担当: 奥山 泰助【公益事業】

第四土曜に行うのが通例だったが、今年は緊急事態宣言等もあり不定期開催。若手主体の勉強会 Beyondサロンでは、メンバーがその時興味があることや新入会員の仕事紹介などここでしか出来ない話も交え、時には厳しいツッコミも入りながら和やかに運営された。

・2021年9月24日(金) オンラインによる開催

「アート作品も芸術品もスポーツ鑑賞も興味ない私が、デザイナーでは困ります(か?)」水野 健一

・2021年12月16日(木) ナゴヤイノベーションズガレッジ

■研究事業-2 メッセナゴヤ出展

担当: 後藤 規文

2021年11月10～13日にポートメッセナゴヤで行われる日本最大級の異業種交流展示会に参加。JIDA入会に興味のある人や、委託事業ができそうな団体など様々な人たちと名刺交換することができた。



メッセナゴヤ出展

■次世代事業 卒業制作展訪問

主担当: 岡田 心【公益事業】

1981年より開催している卒業制作展訪問もコロナ禍ではあったが、オンライン審査含め、八校の卒業制作展を訪問することができた。JIDA中部ブロックデザイン賞として、最優秀賞8名、優秀賞11名、特別賞5名を表彰した。(協賛: セントラル画材)

【日程】

・2021年12月22日(水) 名古屋造形大学 愛知県美術館ギャラリー 8F

・2022年1月22日(土) 名古屋学芸大学 愛知県美術館ギャラリー 8F

- ・2022年2月19日(土) 名古屋芸術大学 名古屋芸術大学西キャンパスX棟3階
- ・2022年2月19日(土) 静岡文化芸術大学 オンライン審査
- ・2022年2月20日(日) 名古屋デザイナー学院 名古屋デザイナー学院内
- ・2022年2月20日(日) 名古屋市立大学 名古屋市立大学 北千種キャンパス
- ・2022年2月27日(日) 大同大学 オンライン審査
- ・2022年3月6日(日) 名古屋工業大学 名古屋工業大学 4号館



Beyondサロン



卒業制作展訪問



■受託事業-1

名古屋市工業研究所 Nagoya Musubu Tec Lab プロダクトデザイン相談

主担当:堀田俊則【公益事業】

昨年度からの継続事業で、名古屋市工業研究所の会員向けに、デザイナーの活用方法やデザイナーの思考方法を伝えるセミナーを行った。会場はすべて名古屋市工業研究所内Musubu Tech Labでリアルとオンラインの同時開催した。

・2021年4月22日(木)「暮らしデザインー 作り手と使い手の関係性から考えるー」伊奈 史朗

・2021年5月27日(木)「企業におけるSNSを活用したBtoCビジネスの新事業開発の仕方と事例について」長谷 祐哉



Nagoya Musubu Tec Lab プロダクトデザイン相談

・2021年6月17日(木)「toC向け商品の作り方」野口 大輔

・2021年7月29日(木)「素材と技術とデザイン」井関 徹

・2021年8月26日(木)「OEMからODMへ」黄ロビン

・2021年10月29日(金)「「イメージ」の分析とデザインへの活用」奥山 泰助／「無いことを求めず「自社の中の付加価値」を見出すものづくり発信」水野 健一

・2021年11月26日(金)「VUCA時代の製品開発～効果的な製品企画とブランディング戦略について～」黄木 靖、中尾 協平／「古くて新しい「有松・鳴海絞り」を活かした製品開発」近藤 泰仁

・2021年12月23日(木)「デザインはチップトンに何をもたらしたのか・・・」後藤 規文

・2022年2月24日(木)「定量的なデザイン手法による商品開発の取り組み」滝本 成人／「デザインが何を生み出すのか?～体験価値から生み出す本質的な豊かさ～」影山 友章

・2022年3月17日(木)「星空を再現する」野田 学

「多面体の発展から」雨宮 史郎

■受託事業-2

OKB総研ビジネスセミナー「モノづくり企業におけるデザイナーの上手な活用方法」

主担当:野口大輔【公益事業】

大垣共立銀行のシンクタンクであるOKB総研主催のビジネスセミナーで、中小企業向けのデザインセミナーを行った。OKB総研の会員がメインのイベントのため、ものづくり系の企業だけでなく、福祉法人や不動産業など色々な業種の人が参加していた。会場のFabcafe Nagoyaの雰囲気も相まり、オープンな雰囲気のセミナーとなった。

・2021年7月8日「商品開発の起こし方」野口 大輔

「クラウドファンディングの事例紹介」武田 康平

・2021年7月29日「中小企業のデザイン経営」森下 眞行「モノづくりにデザインを取り入れる意義」後藤 規文

・2021年8月20日「デザイナーの権利保護と契約」堀越 敏晴「この地域のデザイン事情」後藤 規文

・2021年8月20日「デザイナーの権利保護と契約」堀越 敏晴「この地域のデザイン事情」後藤 規文

・2021年8月20日「デザイナーの権利保護と契約」堀越 敏晴「この地域のデザイン事情」後藤 規文

OKB総研ビジネスセミナー

北陸ブロック

北陸の地場産業とデザイン教育を深掘りする

北陸ブロックでは、地場産業とデザイン教育のトレンド発信を軸に活動が続けている。2021年度は福井・石川・富山の地場産業に焦点を当てたデザインクロストークを開催し、地方から世界へと発信していく取り組みを、オンラインを通して届けることができた。それ以外には、デザインを学べる環境が整っている北陸の特色を活かし、北陸三県にある各大学の卒業制作展を訪問し、知見を深めた。最近では未来考察やSDGsなどの社会問題に目を向けた研究が多く見られるようになった。これからも引き続き北陸の魅力を発見し、発信を続けたい。



「デザインクロストーク」配信時の様子

■地場産業デザインのトレンド発信

デザインクロストーク「地域を超え 繋がる北陸のデザイン」

・日時:2021年9月21日

・参加人数:59名

・場所:オンライン開催 (ZOOM) & 株式会社 La・Kura

・ゲスト:新山 直広 (TSUGI LLC.)、丸谷 耕太 (金沢大学)

・ファシリテーター:稲垣 揚平 (JIDA 理事)

鯖江に集積する漆器・和紙・打刃物・越前焼・めがね・越前筆筥・繊維などの地場産業を広く世界へ発信するイベント「RENEW」の紹介を始めとして、RENEW開始当初の人を巻き込む難しさや、そこから持続可能な運動へと発展させていく道程を聞いた。また北陸三県の伝統産業を横断的に広く発信する「GO FOR KOGEI」では、単なる工芸の発信だけで終わるのではなく、街作りや観光にも繋げていくビジョンを聞いた。北陸を代表する地場産業や工芸を発信するイベントをテーマにしていることも有り、59名の視聴者に届けることができた。毎

年継続して続けられるこれらのイベントには、引き続き注目していきたい。

■デザイン教育トレンド発信

○「福井工業大学卒業制作展」

・日時:2022年2月4日 (金)～6日 (日)

・場所:福井市美術館 アートラボふくい2階

○「金沢美術工芸大学卒業制作展」

・日時:2022年2月24日 (木)～3月1日 (火)

・場所:金沢21世紀美術館 市民ギャラリーほか

○「富山大学芸術文化学部卒業・修了研究制作展」

・日時:2022年2月11日 (祝金)～20日 (日)

・場所:高岡美術館&富山大学高岡キャンパス

毎年2月～3月にかけて、北陸三県を代表するデザイン系大学である福井工業大学、金沢美術工芸大学、富山大学芸術文化学部の卒業制作見学会を実施しているが、コロナ禍ということもあり、今年も分散見学という形で会員各自で見学した。それぞれの地域や学校の特色を活かした学生たちの研究成果から、最新の研究動向の考察を行った。



富山大学芸術文化学部の4人の学生が制作した、実働する1/1フルサイズコンセプトカー「EVE(イヴ)」北陸における新たなトランスポートデザイン教育の取り組み

関西ブロック

関西ブロック ブロック長
江口 海里



関西ブロックでは2021年度から新体制となり、「よりオープンなJIDAに。インダストリアルデザインを身近に。」をビジョンに掲げ、「一人ひとりがインダストリアルデザインを広く一般にまで伝え、その上で生活者と共にデザインを学びあえる場を創造し、感性を磨きながら暮らしを健やかにすると同時にデザインによる新しい文化を醸成するための準備を整える」というミッションを共有。そして「広める（発信）」「学ぶ（教育）」「つながる（交流）」「つなげる（リクルーティング）」の4つのキーワードで従来の委員会に代わる「チーム」を構成して活動した。運営委員会は毎月開催したが、今年度もオンラインによる開催となった。

■SDGsとデザインチーム

リーダー：小野綾香

「女性デザイナーの働き方を考える会」を開催。

・開催日：2021年10月20日

・リモート開催

女性デザイナーの「やりがい」×「働く」を考える〈前編/後編〉をテーマに座談会（非公開）をリモート開催し、内容をメディアプラットフォームの「note」に記事として掲載発信した。オンラインでの地域ブロックを越えた交流ができ、JIDAの活動発信の手段を考える良い機会となった。登壇者：堀田峰布子（JIDAインハウス委員会 委員長）、餘久保優子（JIDA北陸ブロック）、藤本英子（JIDA理事）、聞き手：小野綾香（JIDA関西ブロック）
内容はQRコード、または下のURLからアクセス可能。

■デザインビジネスチーム

リーダー：岩田浩司

「デザイナー向けビジネス英会話勉強会」を開催。

・開催日：2022年1月19日、1月26日、2月2日

・開催場所：大阪デザインセンター（共催）

・参加人数：10名

デザイナーがグローバルに活動する時代になり、

コミュニケーションで英語を必要だと感じているデザイナーも多いことから、デザイナーがビジネスシーンで必要になる表現や交渉でのポイントなど、ビジネス英語に特化した勉強会を開催。3週連続、計3日間の勉強会では、直訳とは異なった意味やニュアンスのあるビジネス用英会話にチャレンジした。講師はJIDA関西ブロック会員のロドリゲス氏。テキストも手作り。



ビジネス英語勉強会

■ブランディングとデザインチーム

リーダー：濱田秀之

東大阪オープンファクトリーに参加。

・開催日：2021年11月20日

デザイナーと製造業が交流することで、デザイナーが製造の現場を知り、製造事業者がデザインの視点を取り入れることをサポートする活動を中心に行なった。

2021年11月に開催された東大阪市の中小企業によるオープンファクトリーイベント「こーばへ行こう」に参加。5社の工場見学やワークショップに参加。2022年2月にその中の1社に個別訪問し、「中小企業の課題をデザインでどう解決するか」をテーマに意見交換。

今後は企業経営者とデザイナーのフラットな交流の場をつくり、協業によってデザインマインドを高め、デザイン経営を意識する企業が増えることを目指す。

■モビリティチーム

リーダー：梁 真榮

新たなモビリティカテゴリーを研究し、カタチにすることを目標としてディスカッションを行った。月1回のチーム内定例ミーティングにてモノ・コト・ヒアリングの面から見学会やセミナーなどの企画し、2022年度には鉄道車両の製造現場見学会を予定。自動車産業との交流も計画中。

■オンラインチーム

オンラインチームは、JIDAの活動をコンテンツ化し、デジタルアーカイブすることを目標にしているが、2021年度は運営委員間での情報共有のためのツールの試験的運用を行なった。

■JIDA関西ブロック学生デザイン賞

第7回目となるJIDA関西ブロック学生デザイン賞

2021は、FRP製品を製造している日ポリ化工株式会社の協賛で「ニューノーマル時代のFRP製品」をテーマに、2021年10月から募集を始め、計22作品の応募があった。2022年2月に一次審査を行い、一次審査を通過した4作品の中から最終審査会で最優秀賞1点、優秀賞2点、日ポリ化工賞1点を決定。最終審査会は3月12日の教育フォーラムと合わせて行い、同時に表彰式を行なった。教育フォーラムではJIDAの太刀川理事長の基調講演をオンラインで行なった。



学生デザイン賞

こーばへ行こう



女性デザイナーの
「やりがい」×「働く」
を考える
＜ 前編 ＞

#JIDA関西ブロック_SDGsとデザインチーム



女性デザイナーの「やりがい」×「働く」を考える <前編>
https://note.com/jida_kansai/n/na5332d1a3582

女性デザイナーの「やりがい」×「働く」を考える <後編>
https://note.com/jida_kansai/n/n9da153ca584b

西日本ブロック

西日本ブロック ブロック長
弥中 敏和



逆境をバネに

当ブロックの定例イベントとなりつつある「出張カベデンin広島」は、その舞台である広島市文化協会美術部会展示イベントが当期も中止になったことから、貴重な外部へのアピールの機会を逸することになってしまった。その一方、同素材をもとに地元のデザイン専門学校での展示が実現し、若い世代へJIDAアピールができたことは喜ばしい出来事となった。

この他、広島パブリックカラー研究会主催のオンラインイベントで当ブロックメンバーである鈴木スバル氏に講師を務めていただき、2年越しの企画「瀬戸内を彩る海上公園～SEA PASEO 誕生秘話」が実施できたことはオンライン化が進んだ良い面もあった。

2021年度は当ブロックが主体となって全国へ情報発信できるよう努めたい。

■出張カベデンin穴吹デザイン専門学校

- ・開催場所：学校法人 穴吹学園 穴吹デザイン専門学校（広島市南区）
- ・会期：2021年8月2日（月）～8月21日（土）
- ・開催時間：10時～17時 ※最終日は15時まで
- ・入場無料（一般入場可）

